



千葉大学医学部同窓会報 第134号 題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元みのはな同窓会長)

編集発行者
千葉大学医学部
みのはな同窓会報編集部
〒260-8670 千葉市中央区交鼻1-8-1
千葉大学医学部内
みのはな同窓会
電話 (043) 202-3750
FAX (043) 202-3753
e-mail : idosokai@med.m.chiba-u.ac.jp
HP : http://www.inohana.jp/

平成15年度 みのはな同窓会総会開催 — 渡辺武先生新会長に就任 —

平成15年度みのはな同窓会総会が、平成15年6月21日(土)午後3時30分より銀座アスターお茶の水賓館



総会風景

において開催された。

道永麻里理事の司会により、近藤洋一郎副会長から開会の辞が述べられた。会議に先立って、物故者81名の冥福を祈り、黙祷を捧げた。長澤仁一会長挨拶に続いて、鈴木信夫理事より会務報告があった。各議題については各担当理事から説明があり、審議承認された。

長澤仁一会長は任期終了のことで退任され、新会長として渡辺武副会長の就任が承認された。(詳細は14面の掲載)。

会長就任にあたって

渡辺 武(昭27)



この度は、はからずも長澤会長の後任として名譽あるみのはな同窓会の会長を引き受けることになりました。

ときあたかも世界恐慌のさなか、イラク戦争終結を宣言しながらいまだに現地の世情は一向に平和が訪れる気配はありません。サダム・フセインはじめ大量破壊兵器も発見できず、前代未聞の異様な民族の抗争、宗教戦争の様相となってきました。

テロの恐怖は燃え盛るばかりです。我が国においても、歴史にない長期のデフレ不況からいまだに脱しきれず、掛け声ばかりの中身の無い政治のなかで、さぞどうなるか!?

実のある医学・医療をもとめて、ようやくこれまでの医師養成のありかたの見直しが、数十年ぶりにやると始まります。

また国家財政の破綻から、国立大学の独立行政法人化にむけて独自の発想が強く求められております。

加えて超高齢化社会、そして少子化時代のなかですます孤立化、核家族を余儀なくされての大量失業時代、犯罪多発をどう切り抜けるか、お上に頼らず横の連絡、システム化を自ら模索せざるをえなくなります。

折角の同士を結集しない手はない。同じ釜の飯を食い、または同じ大学でご苦労した面々七千人が助け合うチャンスを作る、そういう仲間、ちばのみはな会なるものが出来ないか? 将来検討委員会が同窓会の活性化を求めているアンケート調査では、存在の意義を認めるものが半数にも達しません。なにかメリットがないと...と物欲しげな気持ちからでなく、メリットを創つ

てやろうという積極性がほしいものです。ではどうするか!

世界に誇る国民皆保険制度の基本は、自覚ある国民参加の医療であるべきです。病気になるったら医者まかせでは、医療費亡国論となります。実効あるシステム作りには参加型の健康教育が必須です。かつて日本健康科学センターの設立を厚生省、県に要望しましたが、

東京湾横断道路の建設に負けました。立体モデルでやさしくカラダの仕組みを繰り返し体得できる学習施設のことです。

IT革命の時代です。メールリングもつくりえます。皆さんからの声を広く求めます。助けていただきたい。そして短い人生は、どうせやるなら楽しくをモットーにしたいものです。字数が尽きました。

最後に自己紹介。大正14年生まれ。78歳。男性。東京生れ。東京高校を経て昭和23年に千葉医大入學。27年卒。第二内科入局。36年船橋に医院開業。45年—49年まで船橋市医師会理事、49年—平成10年まで千葉県医師会理事(10年間医師会長)、11年から15年まで日本プライマリ・ケア学会会長。欠点は多弁。

みのはな同窓会賞受賞候補者募集要項

第9回(二〇〇四年度)みのはな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集致します。

一、受賞対象者

①学術賞 本会員(甲および乙)で、医学研究あるいは医療活動の顕著な業績により、学術的あるいは社会的に高い貢献をした個人またはグループ。特に学外の教育研究診療機関に居られる方と、学内では学位取得直後の層からの応募を歓迎いたします。

二、表彰

①学術賞 (五件以内) 楯および副賞(総額二百五十万円程度)を贈呈します。
②功労賞 (三件以内) 楯および薄謝を贈呈します。

三、応募方法

所定の申請用紙により、二〇〇三年12月1日から二〇〇四年1月31日までの間に申請して下さい。

四、受賞者の決定

選考委員、常任理事会の議を経て、会長が行います。審査結果は二〇〇四年5月中頃までに各申請者に通知すると共に、みのはな同窓会報に掲載します。

五、問い合わせおよび申請用紙請求先

千葉大学医学部内 みのはな同窓会事務局
みのはな同窓会賞規定については131号をご覧下さい。

紙面紹介

教授就任挨拶	2面	各地のみはな会だより	9~10面
東京都医師会長就任挨拶	2面	附属病院ニュース	10面
みのはな同窓会賞受賞者挨拶	3~4面	交鼻古書コレクション	11面
同窓会著書の紹介	5面	セミナー事業の展開について	11面
みのはな同窓会と清水厚生病院	6面	みのはな同窓会総会議事録	12~13面
みのはなかながわへのいざない	6面	エッセー	14面
クラス会	7~9面	交鼻祭開催に向けて	15面
		人事異動	16面

教授就任挨拶

千葉大学フロンティアメディカル工学研究開発センター 生体ナノ機能材料研究部門

龍岡 穂積 (昭54)



平成15年4月1日付けで千葉大学フロンティアメディカル工学研究開発センター生体ナノ機能材料研究部門の教授を拝命させて頂きました。このような大任を仰せつかり、責任の重大さに身の引き締まる思いであります。センターの設立に多大な御尽力を頂いた学長先生をはじめ、医学研究院長、附属病院長、工学部長、センター長の諸先生方、関係者各位に深謝いたします。

当フロンティアメディカル工学研究開発センターは、来年度からの国立大学法人化を見据えつつ、医学および工学に跨る領域の研究を積極的に推し進める目的で15年度に新設された、医学工学研究および医療機器開発拠点であります。既成の概念に捉われず、民間の企業

の方々と共同で種々の技術や製品を開発することも目的としており、将来の発展には医学部、工学部の諸先生方並びに民間の方々の御助言、御提案が不可欠であります。関係各位の皆様方の御指導、御支援の程よろしくお願い申し上げます。

私は昭和54年に千葉大学医学部を卒業し、同年4月解剖学第二教室(現形態形成学)に入局し、永野俊雄教授の下で神経の超微細構造を電子顕微鏡を用いて観察する研究に従事して参りました。平成元年2月より解剖学第三教室(現神経生

物学)に移り、千葉胤道教授の下で、助教として神経解剖学の教育、研究に携わって参りました。その間、国内留学として岡崎生理学研究、濱清教授の下で聴覚覚醒器の構造、海外留学としてNIH、Tom Reese教授の下で聴覚系中継核のシナプス構造の研究を行って参りました。各教授には誠に親身あるご指導を賜り、

大変感謝しております。尚ここ数年は神経組織に対する磁場の影響を形態学的並びに生理学的手法を用いて研究しておりますが、近年特に問題となっており、携帯電話等の電磁波の影響についても大変興味を持っており、研究を進める所存でございます。磁場や電磁波の効果を積極的に診断や治療に取り入れる方法や技術については、医学、工学、そして民間の方々と連携しながら開発を進めて行きたいと考えており、よろしく

お願い申し上げます。前世紀末頃より世界は混沌の度合を増し、政治、経済のみならず、学問、教育の世界においても価値観の多様化と称して一貫性のな

い不安定な騒然たる状態が続いております。既成の価値観は無意味なものとなり、替わって新しい価値観(Breakthrough)を見出すと模索する大勢の中で世界は苦悩に満ちている状態とも言えるのではないかと思われます。文明国の大

このたびご挨拶の機会を賜り誠に光栄に存じます。昭和43年卒業後、縁あって墨田区内の社会福祉法人同愛記念病院(院長三沢敬義先生)、内科で研修勤務をいたしました。その後兄の友人(日大、田中隆外科

教授)の計らいで日大解剖学教室(小島徳造教授)において、学位を戴きました。また、父が同区内で内科・小児科医院を開業し、当時継承しておりました兄、博光(日大・昭和29年卒)が37歳で急逝し、墨田区医師会副会長でしたが、役員の方先輩方が寂しかったので、執行部に早々に加わるように請われ、昭和49年同医師会理事に就任いたしました。31才の医師会役員です。この後の医師会活動を通じて、身近には、前回は同窓会長、長澤仁一先生をはじめ数多くのものはな会の先輩に厚いご支援を頂きました。以来、医師会参加30年を経ることになりました。平成6年墨田区医師会会長在任時に東京都医師会福井光寿会長より東京都医師会役員就任を要請され、継いで佐々木健雄会長6年間の在任の後、図らずも会長に就任した次第であります。

東京都医師会長 就任挨拶

唐澤 祥人 (昭43)



本年4月、東京都医師会に就任いたしました。

この後の医師会活動を通じて、身近には、前回は同窓会長、長澤仁一先生をはじめ数多くのものはな会の先輩に厚いご支援を頂きました。以来、医師会参加30年を経ることになりました。平成6年墨田区医師会会長在任時に東京都医師会福井光寿会長より東京都医師会役員就任を要請され、継いで佐々木健雄会長6年間の在任の後、図らずも会長に就任した次第であります。

東京都医師会の現況につきましては、会員数、一万九千八百二十名(平成14年12月現在)、構成医師会数58医師会ありますが、地

区医師会45・大学医師会12・都立病産院医師会1となっております。東京都は特別区23の区部と多摩地域・島部26市・5町8村で大きく分けられ、人口一千二百万余で、名実共に世界一の大都市であります。

東京都の地域特性について明確な表現はできませんが、著しい多様性と様々な価値観の基に社会生活が営まれていく大都市であります。東京の医療はこのようなか中で唯一共通の価値である健康確保のためのシステムであります。

昨今の医療を巡る環境は一段と厳しいことは高承のとおりであります。また医学、医療の進歩は医療ニーズの多様化をもたらし、ことに少子高齢化の進展と、医療費の増大の中で、いま、医療の質と財源の確保が最大の課題となっております。

この変革期において如何に都民の期待に添えていくかが東京都医師会の責務であろうと考えられます。都行政との連携はもとより会員・医療機関への情報提供と啓発、都民との直接的な意見交換など双方の活発な情報交換を図る必要があります。

申すまでもなく医療の充実は文化国家の証であります。国民が地域医療から高度先端医療にいたるまで一貫して身近なものであるよう、東京都の医療システムを確立し、多くが参加できるように具体的方策を示すことが東京都医師会の使命であると確信しております。

現都医執行部には実績のある方々が参加しています。が、医師研修・地域医療システム推進と地域保健・地域福祉・広報とIT関係事業・電子カルテ・学校保健・産業保健など各分野に巨額の横断的仕事を推進していきたいと考えております。

千葉大出身役員には道永麻里理事(56年卒・東京のはな会副会長)が就任し、都内医師会でも希少な女性役員として、東京都における女性会員活性化対策についても鋭意取り組まれ活躍されています。

従来から都医師会には、

ゐのほな同窓会賞受賞者挨拶

千葉県医師会（藤森宗徳会長）はじめ多くの医師会からご支援を頂いておりますが、ゐのほな会会員各位におかれましても、是非とも

絶大なご支援・ご指導の程お願い申し上げ、末筆ながら一層のご発展を御祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

☆功 労 賞

東京大学消化器内科 教授 小俣政男（昭45）



この度、ゐのほな同窓会功労賞に御推挙頂きました事、心より御礼申し上げます。

卒業以来、33年が経過いたしました。学園紛争の真只中に卒業し、昭和46年に第一内科入局、インターンマッチングプログラムを経て、48年に米国エール大学に留学、6年間を米国で過ごし、帰国後13年間千葉大学に在籍いたしました。平成4年4月に東京大学に赴任し、丸11年が経過いたしました。エール大学の病理学教室のインターンとしてトレーニングを開始し、肝臓 Edmondson

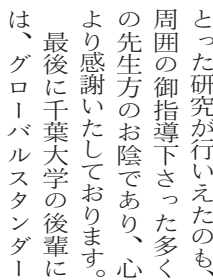
分類の Edmondson 教授

Katskin 腫瘍の Katskin 教授、或いは恩師 Peters 教授に薫陶を得る事ができ、更に活気溢れる第一内科で13年間を過ごさせて頂きました。この間、肝臓の患者さんを診て治したいという一点で、基礎並びに臨床研究を行って参りました。30年前、故奥田教授にスタンダードには二つある、一つは内的スタンダード、もう一つは Global なスタンダードがある、と言われ米国に旅立ちました。現在、東大ではただ私の能力を超えた忙しさに忙殺されております。しかしながら教育、研究、臨床の三つの、ある意味では異なった業務に携わるといふ点、感謝いたしております。教育はまさしく今後10年、20年、或いは30年後の人材育成を目的として行っております。また最近の基礎研究の進歩、殊に細胞内分子の同定とネッ

トワークの解明は不治の病の全貌を、いずれの日か明らかにしようという大きな期待があります。一方、東大に参って、ある意味臨床に最も力を注いだ感もあります。80人余りの消化器病を専門とする若人が、臓器にこだわる事なく高度な技術を有するプロフェッショナルな集団として、形成されました。しかし、この領域に身を置き、臨床にのっとった研究が行いえたのも、周囲の御指導下さった多くの先生方のお陰であり、心より感謝いたしております。

最後に千葉大学の後輩には、グローバルスタンダードという点を念頭に置き、知的好奇心に溢れた研究、臨床に更に今以上に邁進される事を期待しております。

高橋胃腸科医院 院長 高橋 康（昭30）



この度図らずも、ゐのほな同窓会賞功労賞を戴き大変光栄に存じております。私は昭和30年卒業後第二外科に入り、中山恒明教授のご指導を受け40年に厚生

連熊谷病院外科に赴任し副院長・院長の後、昭和47年より現在地鴻巣に開業今に至っております。開業以来専門の消化器の診断・治療・胃腸手術等を主体とした入院治療のほか、一般家庭医として地域に密着した医療を続けてきました。地域住民に溶け込むためには往診等にも可能な限り時間を割くようにし、平成になってからは諸般の事情により入院手術は止めましたが、X線検査・内視鏡検査・超音波検査で疾病の予防と治療に主力を注ぎ、出きるだけ早期がんをみつかる様にして近在の大病院と連携して入院手術を依頼し、治療の流れを構築しました。在宅医療の分野でも、少しでも患者さんやご家族の希望に沿うよう訪問看護ステーションと連携を保ちながら、訪問診療も続けております。

医療・健康教育による地域医療の充実」についてお認め頂いたわけですが、平凡な歩みの連続で特に業績を上げたわけでもありませんので、面映い気持ちでございます。開業医としては当然のことを続けた結果でございます。同窓の先生方も皆同じお気持ちで毎日の診療に努めておられることと思っております。今日まで微力ながらも無事にやってきました。今日まで微力ながらも無事にやってきました。

私は1988年（昭和63年）に千葉大学医学部を卒業後、第二内科（現在、細胞治療学講座）に入局して前教授の吉田尚先生にご指導を頂き、当科の充実した研修プログラムに沿って全人的な研修教育をしていただきました。吉田先生からは、内科医はまずオールラウンドなサブスペシャリストでなければならぬ、その上で研究を志すのならば、臨床研究と基礎科学の理想的バランスを追求せよと御指導を頂きました。一般研修を終えて、旧第二内科の血液研究室に所属して、当時の研究室責任者の王伯銘先生（現在、井上記念病院副院長）のご指導で血液腫瘍学の研究を開始いたしました。1992年からは国立がんセンター1研究所の寺田雅昭先生（現在、国立がんセンター名誉総長）の研究室に国内留学させて頂きました。

寺田先生からは、新しいことと患者のためになること

この度は、ゐのほな同窓会賞学術賞を戴きまして誠にありがとうございます。

☆学 術 賞

自治医科大学 講師 石井秀始（昭63）



この度は、ゐのほな同窓会賞学術賞を戴きまして誠にありがとうございます。

私はこれまで臨床血液腫瘍学を原点として出発して、なかでも腫瘍ゲノムの基礎研究を中心に行ってまいりました。以下、私事にはなりますが、本研究に至りました経緯と研究に関する一端を述べて挨拶に換えさせていただきます。

私は1988年（昭和63年）に千葉大学医学部を卒業後、第二内科（現在、細胞治療学講座）に入局して前教授の吉田尚先生にご指導を頂き、当科の充実した研修プログラムに沿って全人的な研修教育をしていただきました。吉田先生からは、内科医はまずオールラウンドなサブスペシャリストでなければならぬ、その上で研究を志すのならば、臨床研究と基礎科学の理想的バランスを追求せよと御指導を頂きました。一般研修を終えて、旧第二内科の血液研究室に所属して、当時の研究室責任者の王伯銘先生（現在、井上記念病院副院長）のご指導で血液腫瘍学の研究を開始いたしました。1992年からは国立がんセンター1研究所の寺田雅昭先生（現在、国立がんセンター名誉総長）の研究室に国内留学させて頂きました。

寺田先生からは、新しいことと患者のためになること

をモットーに研究せよと教えていただきました。その後、再び千葉大学に帰り、細胞治療学講座教授の齋藤康先生、放射線医学総合研究所室長の宮本忠昭先生からご指導を頂きました。齋藤先生からは充実したその日1日を送ることをモットーに、あるべき全人的な医療人像につき御薫陶を受けました。1996年からは米国 Thomas Jefferson 大学微生物免疫学教授の Carlo Croce 先生のもとに留学させて頂きました。癌細胞で高頻度に欠損している染色体領域から新規癌抑制遺伝子、FH1（第3番染色体）と FH2（第8番）の同定と臨床応用を目指した開発研究を行いました。これが今回の同窓会賞の受賞対象になった仕事でございます。現在までに染色体脆弱部としてはデータベース上で約75個以上報告されていますが、FH1はその中でも最大の脆弱部に位置して発癌の初期からしばしば不活性化しています。欧州では FH1 遺伝子を用いた臨床試験が始まるようとしております。Croce 先生からは物事の本質に従って探究することを学びました。光陰矢の如し、米国生活が6年余になり、永住よ

をモットーに研究せよと教えていただきました。その後、再び千葉大学に帰り、細胞治療学講座教授の齋藤康先生、放射線医学総合研究所室長の宮本忠昭先生からご指導を頂きました。齋藤先生からは充実したその日1日を送ることをモットーに、あるべき全人的な医療人像につき御薫陶を受けました。1996年からは米国 Thomas Jefferson 大学微生物免疫学教授の Carlo Croce 先生のもとに留学させて頂きました。癌細胞で高頻度に欠損している染色体領域から新規癌抑制遺伝子、FH1（第3番染色体）と FH2（第8番）の同定と臨床応用を目指した開発研究を行いました。これが今回の同窓会賞の受賞対象になった仕事でございます。現在までに染色体脆弱部としてはデータベース上で約75個以上報告されていますが、FH1はその中でも最大の脆弱部に位置して発癌の初期からしばしば不活性化しています。欧州では FH1 遺伝子を用いた臨床試験が始まるようとしております。Croce 先生からは物事の本質に従って探究することを学びました。光陰矢の如し、米国生活が6年余になり、永住よ

同窓会員著書の紹介

宮本恒彦 編著

「実践 インフォームド・コンセント」

永井書店 定価650円
宮本恒彦 (昭54)



この本は編著者が勤務する静岡県浜松市の聖隷三方原病院におけるインフォームド・コンセント(以下IC)の実践を通じて、ICの考え方と具体的な実践例を示したものである。当院はホスピスを我が国で最初に設置したことで知られるが、近年は患者の権利を尊重した医療で注目されている。

そもそもICは言葉としては定着した感があるものの、単なる手続きの方法論や紛争防止の手段のように思われている場合が少なくない。私はICが目指すものは個々の患者にとって最善の医療の提供であり、医療者にはその目標のために情報提供と自己決定の支援という役割があると考えて

いる。

まず判断材料として情報提供をすることが基本であるが、患者の専門的な判断能力を無視して自己決定を迫っても患者は戸惑うだけである。むしろ専門家として積極的にアドバイスすることが有用であろう。その提案を受け入れるかどうかについて患者の選択権を尊重することが実践的なICではないだろうか。

本書ではこのような考え方に基づき、様々な診療の場面でどのようなことに配慮すべきか具体的に解説し、素人である患者が本当に自分にとって適切な診療方針が選べるようにセカンド・オピニオンを普及させる意義などについて論じている。各論では病名告知の問題、クリニカルパスの応用、看護師の役割、治験、診療録開示などのテーマについて実践レポートを載せている。ICとは要すれば個を大切に

ラーメイド医療と呼ばれるように、個人の遺伝子による特性に配慮した治療が話題になっていくが、体質だけでなく個人の価値観にも重きを置いた診療が求められているのである。いわば主権が患者にある民主主義の医療でなければならぬのだが、患者の信託を受けて適切な医療を提供する専門家としての役割は変わる。

伊藤晴夫 (昭39) 著

「図解 尿路結石症を治す」

法研 定価1400円
正井基之 (昭57)



「図解 尿路結石症を治す」は日本における尿路結石研究の第一人者である伊藤晴夫教授(千葉大学医学部泌尿器科)が一般向けに書き下ろした単行書である。

多くの図と分かりやすい文章により構成されている。副題は「つくらない、再発させない! 予防から最新治療まで」となっており、とくに尿路結石患者様に読

ることなく重要なのである。このような医療を実践するには、専門分野だけでなく社会との接点をもった医療のありかたについて十分な見識をもっている必要がある。本書はそのような意味でも今後の医療のあり方を考える上で大いに参考になるものだと自負しており、学生を含む医療関係者には非一読いただきたい。

因遺伝子、腸管内のシュウ酸分解菌、シュウ酸カルシウムの食事療法などである。また本書では最近の結石研究よりえられた知見も多く紹介され、尿路結石症における最新の考え方を知ることが出来る。

津上毅一 編

「涙ぐむわれん」

川喜田愛郎追想集 2002年

(非売品)
清水文七 (昭33)



千葉大学第五代学長、川喜田先生はウィルス学者であると同時に、若き日に東大聖書研究会で矢内原忠雄氏らに師事して以来、無教会派のキリスト者として、生涯を医学と信仰に捧げられた。猪鼻の丘に赴任されたからは永年にわたり「聖書を学ぶ会」を主宰され、毎週学生と共に聖書を輪読された。

本書は故人と深くかわった方々が告別式(1996年12月14日)の際に捧げた祈祷、弔辞、追憶などからなる。るのはな同窓会からは柏戸正英(昭33)、栗原稔(昭36)、鈴木守(昭39)、小原安喜子(昭39)、酒井忠昭(昭42)氏らが参画している。さらに、川喜田教室(旧細菌学教室、現在の分子

とともに、第一線で活躍される医師(泌尿器科医も含めて)にとって参考になるものである。

ウィルス学) 同門会長の寺島東洋三氏(昭24、放射線医学総合研究所名誉所長)は微生物学の、そして現代医学の先達としての恩師の姿を率直なタッチで追想している。

なお、本書は、川喜田先生ご自身が医学に対する姿勢の根底に、いつもキリスト者としての信仰を抱いていたことを語った晩年の著書「生命・医学・信仰」(新地書房、1989年)と共に、亥鼻図書分館に所蔵されている。

本書は書店で購入することはできませんが、どうしても入手したいという方は寺島東洋三先生(電話043-259-0703)に問い合わせてください。

るのほな同窓会と清水厚生病院 清水厚生病院 泉屋 嘉昭 (昭44)

院長職を命ぜられてちょうど1年が過ぎようとしている。あつという間の1年であったが副院長時代と違って色々大変な仕事だというのが実感である。宮本恒彦先生から同窓会誌に一筆書くよう依頼されて、静岡県のはな同窓会にほとんど参加していなかったなあと思つた。何かを書けばいいのかわからなかった。というのも当院は千葉大の関連病院として多くの同窓生が常に身近に居るため、あらためて同窓会というものを意識しなかつたためと思つた。

院長としていろいろな人と接触する機会が増え同窓のありがたさを感じるようになり、今後は同窓会にも積極的に参加しようと思つている。

小生、大学紛争華やかな中昭和44年卒業し2年間の自主研修(43卒と共に医局に属さず大学や関連病院で6ヶ月毎のローテイト)の後、昭和46年脳神経外科開設とともに教職員(いわゆる入局)となった。昭和51年に1年のつもりで清水厚生病院に赴任したがなぜか2年になり、植村研一先生

(昭34)が浜松医大脳神経外科教授になられ、当院の脳神経外科は浜松医大の関連病院となることになりそのまま留まることになってしまった。昭和54年から4年間浜松医大にお世話になった後再び当院に就職し、以来静岡県人になってしまった。

ここでのはな同窓会と関係深いので清水厚生病院のことを少し書かせていただく。当院は昭和9年農民のための診療所として開設されて以来農協系病院として発展してきた。現在静岡県厚生農業組合連合会(厚生連)傘下にある四つの病院の一つであり許可病床数386床診療科10科の公的病院として地域の基幹的病院となっている。さらに市内に老健施設「きよみの里」がある。施設長は前院長の原壮先生(昭40)である。平成6年に編纂された60周年記念誌によると、るのほな同窓会(千葉大学)との関係がはつきりしてくるのは昭和34年一内より金田丞亮(昭20)先生が高相豊太郎(昭28)先生とともに院長として赴任されてよりと思

われる。それ以前にも山田章栄(明38)、木村鼎、下山季治(大5)信夫洋太郎(昭13)各先生等のご尊名がみられるが詳細は不明である。当時駅前であつて市内唯一の結核病床40床を含む80床程度の木造2階建ての病院だつたそうであるが、昭和37年4月、内科、外科、整形外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科六科の総合病院として新築移転した。当時のスタッフの出身校はさだかではないがその後の各科の流れを見るとほとんどの科が千葉大ではなかつたかと思われる。移転後小児科(神原秀三・昭35)、ついで脳神経外科(蜂巣裕・昭34)が新設され約20年で狭隘化とマイカー時代の駐車場難のため昭和56年10月に庵原町に再度新築移転し現在の病院になった。内科、外科、整形外科、小児科、耳鼻科、産婦人科が千葉大の関連病院であつたと記憶している。その後千葉大から転出された教授との縁で循環器内科が北里大(木川田隆一教授)、脳神経外科(植村研一教授)、耳鼻科(野末道彦教授)が浜松医大からの派遣となり、両教授のご尽力と思うが産婦人科、小児科、皮膚科、麻酔科が現在浜松医大である。また富

山医科薬科大(濱崎智仁教授)からも内科医一名が派遣されている。内科、外科、整形外科のメジャー三科は現在も千葉大の関連病院であるが他大学出身の医局員も多いため現在千葉大出身者は45名中10名である。

つきに当院に赴任後清水市内に開業された先生方を紹介しておく。鈴木太郎(昭22、外科)、宮部浩(昭30、内科)、渡辺良彦(昭25、内科)、渡辺栄一(昭30、内科)、植田尚男(昭28、耳鼻咽喉科)、伴野恒雄(昭34、整形外科)、鈴木清磨(昭38、内科)、齊藤全彦(昭37、外科)、神原秀三(昭35、小児科)、森本典子(昭51、小児科)、土川秀紀(昭44、整形外科)、高野正一(昭54、整形外科)、土屋友彦(日医大昭61、一内)の各先生方がおられ、富士宮市には、高橋敏信(昭52、外科)、高橋勇(昭和大昭34、二外)、藤枝市に菅ヶ谷純弘(昭45、内科)、伊東市に安井璋充(名市大昭41、整形外科)先生が開業されている。

開業でないOBとしては、蜂巣裕(昭34)、七辺一三(昭38)先生が清水在住であり、文隆

雄(昭46、沼津市立病院)、山本俊樹(昭51、富士宮市立病院)、横山徹夫(昭48、町立浜岡病院)、龍 浩志(昭42、青山病院)、忍頂寺紀彰(昭42、すずかけ病院)、篠原義賢(昭44、藤枝市立病院)先生等も当院OBである。

まだ落としてしまった先生がおられるかもしれないが、かように、清水厚生病院とるのほな同窓会との縁は深いのである。今後も千葉大卒の先生方がおおくみえられ、そして静岡県のはな同窓会がますます盛んになればと思う。

波静かな入り江の岸边。何艘もの帆船が係留され、街中が一時の休息の中にあります。表紙絵がいざなう神奈川のはな会の一景です。読者の皆さん!この街を散策してみましよう。平成15年14号の街の中へ入ってみましよう。



「るのほなかながわ」の街の先生方は、実に多士さいさいですよ。まずは、初のテレビ講演の苦勞話しやお子さん達が結婚し奥様と2人きりに戻るといふ近況報告です。一方では、昭和20年代の亥の鼻山学園エピソードや学友の思い出話です。亥の鼻山時代の思い出と共に勤務先の病院の解説やご自身の開業医院の紹介もあります。圧巻は、明治35年(1902年)卒業医専2回生の卒業証書の写真です。そして、その当時の先生方

訂正とお詫び
133号で、左記の誤りがありました。訂正しお詫び申し上げます。
医学部入学者
「千葉」足立明彦
「東京」足立明彦

るのほなかながわ

へのおいさな

るのほな同窓会理事 鈴木信夫(昭47)



波静かな入り江の岸边。何艘もの帆船が係留され、街中が一時の休息の中にあります。表紙絵がいざなう神奈川のはな会の一景です。読者の皆さん!この街を散策してみましよう。平成15年14号の街の中へ入ってみましよう。

クラス会

白兔会

(昭17)

昭和17年9月卒業の我がクラス(白兔会)は、最近是有志による懇親会を、春秋2回開催することにして、本年春の懇親会は、平成15年4月20日(日)に東京駅構内の「精養軒」で開催した。今回は東京及び関東地方在住で、まだ診療に従事している者や出席可能と思われる諸君に対して、20通ほどの案内状を出したが、出席者は僅かに5名



(写真は、前列左から浦部、橋爪、村上、木村、後列左から窪田、本間、藤村、大村、水間)

(大村光、窪田静夫、藤村満寿夫、本間哲雄、水間正冬のいつもの顔ぶれ)のみであった。然し、故人の奥様方が4名(浦部香子夫人、木村照子夫人、橋爪文子夫人、村上レイ子夫人の皆さん)御出席下さったので、9名で正午から2時間有楽しく過ごすことができた。全員から近況報告があったが、特に趣味に関する話題が多かった。出席者は奥様方を春、秋続けて貰いたいとの要望が強いので、秋は11月9日(日)に又開催することにし、名残り惜しみつつ散会した。

(水間正冬)

八千会

(昭26)

平成15年5月24日(土)卒後52回目の同窓会が新宿のホテルセンチュリーハイアット5階、明星の間で開催された。昨年



函館総会時、次回回は千葉開催と決めていたが変更したのは多数ご参加を願った事と、八千会設立以来現在まで名幹事として会のお世話に尽力された大田和明総務幹事がここ数年来体調を崩され顔を見せられなかったが本年は出席の意欲を伝えられたので是非出席して頂きたくお住まいに近い新宿としたのも理由であった。参加者は遠方から長崎の原寛君、函館の多田桂一君、長野の今井良夫君の3名で他は東京とその近郊在住の大田和明、片桐優、菊島竹丸、佐藤宏、田口貞文、本間彬、森巨敬、小関芳昌、大沢弘和(敬称略)の9名で計12名。午後6時総会開会。先立ち物故会員

の黙祷より始める。わがクラスは卒時45名であったが昨年までに約3分の1に当たる16名の友人を失った。現会員数29名、近況報告によると本日欠席の17名の内、大半は何らかの疾病を抱え

不調を訴えている。平均年齢76才の会員としてはやむを得ないものと思われる。総務報告、会計報告、監査報告、と滞りなく終了、懇親会に入る。いささか酔いの回った頃を見計らって各自近況報告がなされる。病気の話、診療の話、趣味の話、世代交

二七会

(昭27)

代の話、あげくは息子、甥の子供の自慢話に迄及び互いに話が飛びかい大いに盛り上がった。8時過ぎ尽きぬ話を二次会場に持越し更に旧交を暖め合い10時を回った頃再会を胸に互いに握手を交わして散会した。

(大沢弘和)

我々は「喜の字の祝い」の年頃で、毎年2回、全国各地でクラス会を行っており、今回も5月24日(土)小沢昭司先生の「もうあと何回も集まれませんよ!」との呼びかけに21名 夫人9名 計30名がお茶の水アスターに集会した。

会員の近況報告をダイジェストすると、現役で毎日診療している者、週3日前後又は午前中のみ後継者に助けられ乍らの診療、漢方医、廃業して年金生活者がいた。

休暇を利用して国内国外への旅行・花見・映画・グルメ、伊太利2週の学会参加、立体解剖学の研究、建築は抽象性が大切。病氣(眼病等)をしたが今は丈夫、負傷後活力減退の人、ペースメーカーを入れている人、ペースメーカーが止められぬ人。

25年前の感染症(天然痘)に関する仕事(テロ)で生き返り、本人不本意だが橋爪株として活躍中。但し、愁うべきは日本のワクチン業に危機が迫り、メーカーを統一し1〜2社に絞れ。さもないと外国に滅ぼされる。

大学同窓会(あのはな会)の存在が危うい。あのはな会報(あのはな会)の存在が危うい。あのはな会報(あのはな会)の存在が危うい。あのはな会報(あのはな会)の存在が危うい。

5月31日(土)錦糸町ロッテプラザに、『SARS・パイオテロを考える会』なる駅前大学を企画したところ、50名以上集まり、好評で継続希望の声が多かった。「今回、所謂未亡人に声を掛けよう。」という小沢先生の意向で、塩田・矢島夫人が参加された。

夫人：亡夫は27会を楽しみにしていた。思い出の中に暮らしているが、今回お招きを受けて出席した。夫の側にいる様な気がして楽しかった。同窓の皆様とはもう繋がりが無いものと思っていた。楽しかった事を思い出に暮らしていたが、お

電話を戴き感謝している。これまで、夫の足を引っ張ったのではないかと後悔していたが、旧友の温かいお気持ちに接し、次の会には息子と共に出席したい気持ちです。

閉会の辞(小沢昭司)：27会を永遠に続けましょう！極楽往生したい人は手伝って下さい！

参加者：天野 茂・井上 幸万・小川源太郎・小沢昭司・F・住吉孝男・F・大浜博利・F・河目堯介・櫻井 稔・橋爪 壮・渋谷 実・F・黄田昭光・関口和夫・F・武宮三三・鍋谷欣一・服部了司・F・広田和俊・藤田龍五郎・町澤清太郎・宮川昭平・F・渡辺和夫・渡辺 武・塩田夫人・矢島夫人

(小川源太郎)

爾久会

(昭29)

昭和29年千葉医科大学卒業のクラス会(爾久会)は毎年場所を変えて行なわれています。本年は5月24日木更津市のホテルロイヤルヒルズを会場として行なわれました。参加者は40名(うち同伴の配偶者6名)。宴会や観光、ゴルフの手配は地元(の)川野元 茂氏のお世話になりました。写真撮

影のち宴会は午後6時半開始。まず会長(と級友は云うが実態は終身幹事)島崎淳氏の挨拶、この一年の物故者、河野保久、山田郁両氏に対する黙禱のあと中野練一氏の司会で懇親の宴は賑やかに始まりました。

前週の植樹祭の天皇、皇后両陛下のお食事を担当したというシェフの手による豪華な海の幸と地酒に舌づつみを打ちながら各自の近況報告、平均75才くらいと思われませんが、開業医や勤務医を続けるもの、健康管理医として働くものなど殆ど全員が医業を続けているのは喜ばしい限りです。宴半ばには地元有志による木更津甚句や證誠寺ゆかりの狸おどりのサーブスがあり宴は盛り上りました。9時散会のととも10名ほどが幹事の部屋に集まり酒、ビール、ウィスキーの宴は夜半迄続きます。

翌日は観光組12名、ゴルフ組(樋口道雄氏が幹事)8名に分かれ、観光組は小型バスで「金鈴塚遺物保存館」「海ほたる」などを見物、木更津名物のおさきり料理の昼食に舌づつみを打ち、昼食後は与三郎の墓の見物など、これは地元のボランティアの案内。

来年の卒後50周年記念の爾久会を楽しみに散会となりました。

(窪田叔子)



千葉医科大学50周年 卒同窓会 11月5、6、7日 於ホテル八重桜

五 五 会

(昭30)

平成15年5月24日(土)河口湖畔の富士レイクホテルにて、多摩地区在住会員8名の幹事のもとに行われた。

当日の出席者28名。今年度から、卒業間近に病のため一年遅れて卒業した池田草二君も会員として初参加。同時に幹事の一人になってもらった。池田君に乾杯の音頭をとってもらい、其の後全員で1分間スピーチを行ったが、皆昔と変わらぬ元気で、持ち時間をオーバーして喋ったため2時間半はアツという間にすぎた。

しまい、当日帰宅する3人をパレスチナ民謡シャローム(さらば)を全員で歌っておくりだし、二次会のカラオケルームへ移動。2時間目いっぱい歌い、最後に故郷を斉唱して二次会終了。全員72歳を過ぎていたのに元気がいっぱい。三次会までやる仲間もいた。



翌日は貸切バスでオルゴールの森美術館を1時間

見物し、王侯貴族の間の壮大なオルゴールの演奏、噴水仕掛けのトルコ行進曲の演奏等々、結構楽しめた。その後、西湖、精進湖、

参 旧 会

(昭39)

本栖湖を巡って午後1時河口湖駅前にて解散。やや盛りだくさんの感じもしたが、一人の脱落者もなく全員無事、帰路に着いた。来年は千葉市で行う予定。当日の出席者。浅見敦、浅利行男、新井多喜男、岩井忠志、池田草二、片山喬、加濃正明、上牧順三、小林富久、小久保(カメラマン)、斎藤正道、指田和明、志村昭光、鈴木裕太郎、高橋康、滝口光雄、中野政雄、永野俊雄、永野夫人、野本和男、平山皓、藤山嘉信、松田三樹雄、宮部浩、村瀬靖、望月良夫、吉原一郎、横田俊二。

(野本和男)

今年の参旧会は神奈川県が担当で、5月10日(土)11日(日)に箱根で開催された。今年も昨年の山梨県と同じく観光を兼ねて1泊2日で松岡俊介、小林豊、矢島義忠の各先生と小生が協力、企画したが、ゴルフは神奈川県にする人がいない為、特別に塚田正男先生に協力してもらった。今年も昨年とほぼ同じく53名(その中、夫婦同伴が21組)が参加した。創業が明治11年とリゾート・ホテルとして

ては日本で2番目に古く草分け的存在の歴史と伝統に満ちた箱根宮ノ下の富士屋ホテルに宿泊した。記念撮影(写真)の後、

藤毅先生を中心として、盛大に開催されることなどが決定された。続いて昨年の幹事の清水天先生の乾杯の音頭で懇親会が始まった。全員からの近況報告があり、楽しい話もあったが、現在は責任ある立場の人が多く、停年間近かではあるもののその話には独立行政法人化に向けての厳しい現実の話などもあった。又松岡先生や矢島先生の近況報告のさいには、10何年ぶり



かの参加の為か、あの人は誰?との囁きもあった。二次会はホテル内のカラオケ用パインルームを借り切りにして約2時間、昔話などつもの話で旧交を暖めた。翌日は観光組とゴルフ組に分かれて、曇天ではあったが、新緑とつじのシーズンを中心に堪能し、日頃のストレスを発散した。観光組は29名(その中、夫婦同伴が11組)で芦ノ湖遊

覧を中心に午前中は箱根がラスの森で中世と現代の燦然と輝くヴェネチアン・グラスを見学した後、海賊船で芦ノ湖を遊覧したが、雨が降りそうでも風も強くとても寒かった。昼食は、ついで有名山のホテルで摂ったが、ホテル内庭園のつじは有料で、それは美事であった。深尾立先生達は800円を払って見た様だが、小生達は2階の空き部屋から只で見た。午後は成川美術館で現代絵画を鑑賞した後、小田原名物の蒲鉾などを小田原鈴廣蒲鉾店で約1時間買物をしたが、奥様方にはとても好評の様であった。ゴルフ組は20名(その中、夫婦同伴が5組)が箱根外輪山を背景に仙石原の雄大な敷地にレイアウトされ、毎年女子プロゴルフトーナメントが開催される素晴らしい名門コースで、昨年、菅原宏、三浦徹蔵の両先生達が熱望した大箱根カントリークラブに挑戦し、プレーを楽しんだ。その後、観光組、ゴルフ組共に小田原で合流し、来年千葉での再会を約して散会、帰路についた。

(角張雄二)



58卒 (&77入学) 同窓会 (昭58)

平成15年2月16日、58卒 (&77入学) の同窓会をホテルニューオータニ幕張で開きました。卒業年度にかかわらず、学生生活を共にした仲間ということで有資格者130名中58名が参加しました。

代の関係に戻り、遠慮のない会話で大いに盛り上がりました。最後に盛岡から参加で還暦を迎えた板澤正明君に一本締めをお願いし、今後は頻繁に集まろう、という提案がなされました。その後、ほとんどの参加者が二次会に席を移し、夜遅くまで宴は続きました。(豊永直人)

インフルエンザを押しして石巻から参加の岸幹夫君に乾杯の音頭をお願いした後、丹野裕和君、山本修一君の司会で全員が近況報告をしました。仕事の近況、子供の受験、持病の話など、尽きない話題に皆大笑いで楽しい時間を過ごしました。私達の学年は卒業後20周年になります。その間一度も同窓会を開かなかったのですが、そのインターバルを感じないほどすぐに学生時



各地あのはな会 だより

江戸川あのはな会

平成15年度江戸川あのはな会総会が、6月14日に、市川市の割烹栃木家で開催されました。

大学から税所宏光教授と宮崎勝教授のお二方を招待し、千葉大学の近況をお話していただくことになりました。それに、江戸川保健所、岡崎卓見所長(昭42)にも出席願いました。定例総会は、岩倉の司会で、藤山会長の挨拶にはじめ、型の如く、平成14年度事業報告、会計報告、監査報告と円滑に進み、無事終了致しました。会長挨拶の中で、最近、若い会員の出席が少ないことが取り上げられました。江戸川区は千葉に近いので、千葉大学出身の医師も多く、現在42名の会員がおりますが、本日出席者は15名で、うち昭和50年卒以降の会員は2名だけでした。若い人の参加を促すために、年一回の総会だけでなく、勉強会も計画し、交流を計っておりますが、仲々効果は上がりません。

総会終了後、山上健次郎元会長の発声で乾杯をし、懇親会に入りました。のども潤ったところで、先ず税所教授から、千葉大学の現状と将来像、殊に、大学院大学に向けての課題・特殊法人化の問題・平成16年から始まる研修医制度の問題等・多岐にわたって、詳しく説明をして頂きました。次に、新進気鋭の宮崎教授には外科学の進歩と、教室についてのお話をいただきました。お二方のお話を拝聴して、千葉大学の将来は、難題を抱えているけれども、大きな夢があり、頼もしく感じられました。そして、大学と同窓会が一体となって進む大切さを改めて感じました。

岡崎保健所長からは、最近の保健行政の有り方などのお話があり、江戸川医師会と区の保健医療に関する密接な協力を保ち続けるための有意義なお話でした。その後、出席者一人ひとりが一言ずつ、近況報告があり、旨い料理と葡萄酒を酌み交し、和気あいのうち、午後8時すぎお開きとなりました。出席者：山上健次郎(昭17) 笠川猛(昭22) 神山一郎(昭24)、市川芳郎(昭25)、高田輝雄(昭25)、



村瀬靖(昭30)、伊谷昭幸(昭30)、藤山嘉信(昭30)、福田陽(昭32)、岩倉弘毅(昭37)、小野健次郎(昭39)、木村靖広(昭43)、南郷晃(昭49)、森照男(昭53)、竹内孝治(平3)

(岩倉弘毅)

千葉あのはな会 総会報告

平成15年6月7日(土)午後3時より、JR千葉駅ペリエホールに於いて開催された。武者廣隆(昭40)理事の司会により、開会の辞を光永伸一郎(昭59)理事が述べ、ついで14年度物故会員17名のご冥福を祈って黙祷を捧げた。続いて大浜会長が挨拶のなかで、当会は約二、〇〇〇名の会員を擁しながら、地元ということもあり、10ブロックの各支部での活動もなかなか思うに任せない。あのはな同窓会将来検討委員会が行った会員の意識調査でも50歳前後を境界線として、同窓



会に対する関心度、ニーズ、価値観などに大きなギャップがある。若い世代の積極的な参加により同窓会の発展を望む年配層ではあるが、若年層にとっては同窓会にニーズがないから参加する意識がないという結果が出ている。若年層の参加を望むのであれば、将来や職場に対する不安や課題に対する情報提供やサービスなどのニーズに応えることが重要であると述べた。恒例により議長に会長を選出し議事に入り、14年度事業報告と15年度事業計画案を光永理事、14年度会計報告を阿部一憲(昭39)理事、監査報告を国井光智(昭32) 監査が行った。役



大藤副会長の閉会の辞に続き、特別講演として「プー

「大学病院の今後」―法人化へむけて―と題して、附属病院長の藤澤武彦教授が病院の機構改革、意識改革等について詳細に話された。組織改革として診療科の再編、卒前・卒後教育ならびに生涯教育の新しい教育システム、病院のアメニティの整備、患者へのサービスの向上に対処すべく平成18年に完成予定の新病棟建設計画があること、高度先進医療の開発、地域医療機関との連携の強化など。さらにSARS対策についても言及された。

続いて来賓講演として「大学病院の今後」―法人化へむけて―と題して、附属病院長の藤澤武彦教授が病院の機構改革、意識改革等について詳細に話された。組織改革として診療科の再編、卒前・卒後教育ならびに生涯教育の新しい教育システム、病院のアメニティの整備、患者へのサービスの向上に対処すべく平成18年に完成予定の新病棟建設計画があること、高度先進医療の開発、地域医療機関との連携の強化など。さらにSARS対策についても言及された。

り懇親会が行われ、栗原理事の閉会の辞に続き来賓として出席された長澤仁一同窓会会長が乾杯の音頭をとられた。この時、今期で会長を辞任し次期会長には渡辺武副会長を会長に推薦するとの発言があり、突然の事でもあり、渡辺副会長も困惑気味であった。



ムの中国茶」―私たちとの意外な関わり―と題して、ダイヤモンド・ファイナンシャル・プランナーズ専務取締役の工藤佳治氏の興味あるお話しを聞くことが出来た。暫時休憩のあと、市村公道(昭35)理事の司会によ

工藤佳治氏が持って来られた中国茶を数種類ご馳走になりながら、和気藹々のうちに大藤副会長の閉会の辞で解散となった。

日本旅行医学会からのお知らせ

日本旅行医学会事務局より同窓会本部へ、同窓会員の皆様にも活用していただきたいセミナーとして、次のような企画が提案されてきました。名称は「木曜セミナー」で、次のようなプログラムで開催されます。奮ってご参加下さい。各回、18時30分～18時55分 プレレクチャー、19時～19時40

尚、懇親会の席上、千葉市内科医会会長の椎名益男早速、藤澤病院長と大藤副会長に相談し決定した。8月中旬に納品予定である。「出席者」川越不二男(昭14)、川辺敏(昭18)、国井光智(昭21)、石橋祝(昭22)、渡辺武(昭27)、大浜博利(昭27)、桜井稔(昭27)、武宮三三(昭27)、橋爪壮(昭27)、町沢清太郎(昭27)、大藤正雄(昭29)、香田真一(昭31)、椎名益男(昭33)、高木學治



先生が私に、当会から大学病院に「アイソレーター」を寄贈してはどうかとの提案があり、

分 講習、19時40分～20時
質疑応答、20時～二次会の日程です。
* * *
・ 熟年旅行医学シリーズ
・ ダイビングの旅行医学シリーズ
・ トレッキングの旅行医学シリーズ
・ 飛行機の中の旅行医学シリーズ

・ 食事・水・ワイン旅行医学シリーズ
・ 日本にいる外国人の旅行医学
・ 感染症旅行医学シリーズ
・ 海外病院事情シリーズ
*
詳細は、日本旅行医学会
HP <http://www.jstn.gr.jp>
をご覧ください。

財団法人シルバーリハビリテーション協会 シルバー病院

新築移転につき 医師募集!!

当院は、昭和59年2月に開設し、地域に密着した郊外型一般病院として、急性期から慢性期までの包括的医療を提供しております。現在、病床数201床、内科、外科、泌尿器科、リハビリテーション科、脳神経外科、眼科、皮膚科、神経内科、麻酔科の9診療科で構成されており、内科系救急指定を受けて24時間診療体制を行っております。脳卒中後遺症の患者様を中心としたリハビリに力を入れ、在宅療養支援も行っております。健診施設を関連にもち、生活習慣病の早期発見早期治療に努めるべく、平成16年に全館新築移転致します。地域医療に関心があり熱意のある医師を募集しています。ご興味のある方は履歴書ご送付又は下記までご一報ください。

募集科

- 内科
- 外科
- 泌尿器科
- 整形外科
- リハビリテーション科
- 脳神経外科

募集人員

各科1～2名

待遇等

面談の上厚遇
赴任旅費支給

連絡先: シルバー病院 事務長 中村
〒039-1161 青森県八戸市河原木字八太郎山10-444
tel : 0178-28-4000 fax : 0178-20-4962
mail : hpsilver@hi-net.ne.jp
※URL : <http://www.hi-net.ne.jp/silver>
※交通-東京～八戸間 東北新幹線にて3時間

附属病院二ユース

病院長 藤澤武彦(昭42)

医学部附属病院の主な出来事

(平15・4〜平15・8)

平成15年4月1日

こどものこころ診療部の設置

こどものこころの問題に

対する専門的診療を通して、こどものこころの健康な発達に寄与することを目的として「こどものこころ診療部」が設置された。

平成15年4月14日

総合診療部の診療を開始

全人的医療としての初期診療・総合診療とその臨床教育の推進を図ることを目的として設置された総合診療部の診療を開始した。

平成15年4月17日

「特定機能病院における包括評価について」の講演会

特定機能病院の入院医療に関する包括評価導入を円滑かつ適正に行うため、厚生労働省保険局医療課企画官の矢島鉄也氏を招き、「特定機能病院における包括評価について」と題し講演会を開催した。

平成15年4月30日〜5月14日

研修医ガイダンス

研修医を対象に、実習を

主体としたガイダンスを実施した。このガイダンスに当って最低限必要とされる知識、技能及び態度の修得を目的として行われている。

平成15年4月
「医療スタッフマニュアル(携帯版)」の作成

このたび、従来からあった「医療安全管理マニュアル」とは別に「医療スタッフマニュアル(携帯版)」を作成した。このマニュアルは、安全管理に関する知識の普及啓発を図ることを目的として、手帳サイズの大きさで携帯しやすく、いつでもどこでも役に立つよう院内で働く全職員に配布された。

平成15年5月12日〜16日

看護の日・看護週間

「看護の日」を記念して、5月12日〜16日までの間を「看護週間」と定め、「看護の心をみんなの心」をメインテーマに各種の行事を開催した。

平成15年6月19日〜20日

第57回国立大学医学部附属病院長会議

群馬大学を当番大学として

て行われた。主な議題は、「卒後臨床研修必修化への対応について」「国立大学法人化への附属病院の対応について」「国立大学法人化後の国立大学医学部附属病院長会議の在り方について」であった。この後行われた常置委員会において、引き続き千葉大学が委員長校となった。

平成15年6月25日
院内コンサート(講談寄席)

恒例の院内コンサート。

今回は千葉市内で講談の稽古をしているアマチュア講師の方々による講談寄席が行われ、多数の患者様が参加し、楽しい一時を過ごした。

平成15年7月7日

臨床医学研究助成会総会

多くの臨床医学研究助成会委員が参加し、ホテルサンガーデン千葉で開催された。講演会では、服部孝道神経内科長による「老年期痴呆について」ボケずに長生きするには、「佐藤武幸感染症管理治療部長による「SARSにみる危機管理」と題した講演が行われた。

平成15年7月10日

医療訴訟担当裁判官の病院視察(研修)

専門的知識を必要とする審理の充実促進を目的とし

て、全国の裁判所より医療訴訟等を担当する裁判官7名が来院した。医療現場及び医療事故防止のための取り組み等を間近で体験するとともに、病院関係者との懇談では医療訴訟(裁判)について活発な意見交換が行われた。

平成15年7月10日

治療管理・支援センター

附属図書館亥鼻分館に医学書を主とした文書並びに古文書類が所蔵されており、元千葉県立中央博物館歴史学研究科長樋口誠太郎氏(現千葉県郷土史研究連絡協議会副会長)によって分類整理が進められ、平成12年にその中間報告としての目録が刊行されたのは周知のことである。蔵書中には、医療に関連した江戸時代の浮世絵・薬物の版画広告・明治初頭の医事公文書などもあり、現在これらは医事文化資料として整理が進められている。

この亥鼻分館の古書コレクションについて、日本医史学会の機関誌『日本医史学雑誌』2003年49巻2号の「文庫めぐり」というコーナーに、樋口氏が紹介記事

催セミナー

「がん治療を例に、本学における臨床試験の受け入れと被験者の安全性についての検討」イレッサをめぐる一連の副作用報告と対応について」と題し、本院から栗山呼吸器内科長、国立がんセンター中央病院から藤原康弘氏を招き、セミナーを開催した。

平成15年8月1日

院内の全面禁煙

8月1日(肺の日)をもって、病院内を全面禁煙にする。病院内売店でのタバコの販売を中止した。

平成15年8月4日

共通研修セミナー

研修医が、プライマリケアに適切に対応できるために、各診療科の協力による

り、実践的で広範な最新の基本的知識の修得を目的として行われている。

平成15年8月5日
院内コンサート(ギターコース)

木下尊博フォルクロー

によるギターの演奏が行われ、多数の患者様が参加し、楽しい一時を過ごした。

亥鼻古書コレクション

石出猛史(昭52)

を書かれていますので、ここにその記事の全文を紹介す

文庫めぐり

千葉大学附属図書館・亥鼻分館

【来歴と概要】当分館は千葉大学医学部など亥鼻地区に所在する部局をサービス対象とする図書館で、その蔵書を蔵書印で見ると県立千葉医学校(明治十五年)から現在のものまで多くの医書を見ることが出来る。

なかでも当分館には江戸時代以来の古医書とそれに関連する古文書が数多く蒐集されている。これは医学部の眼科教授であった伊藤弥生氏が将来「医史学」を研究しようとして、大正五年から退職される昭和十四年までに蒐集された古医書類で、此の間関東大震災(大正十二年)と太平洋戦争下の千葉空襲(昭和二十年)の二度の災害があったが幸い被害を受けずに、ずっと保存された。これに加え茨原市の眼科医千葉弥次馬氏と佐倉順天堂の佐藤恒三氏の旧蔵書等が寄贈されて当館の古医書の内容を質・量ともに豊富なものとしている。

それらをざっと整理して見ると、和漢書五、四二〇冊、洋書七冊が現在進行中の蔵書集計である。またこのような古医書以外に、「医事史料」として「玉碎蔵書」の副本とされる全く同じ内容の「女性解剖図」、石版印刷の「采衝」洋書ではボンベが松本良順に贈った二人のサインが入っ

る。猶、原文を転載するにあたって、日本医史学会の

許可をいただいたので、その御好意に深謝する。

ている。ジツヘル著の「眼病図譜」等々がある。

こうした当館の貴重古医書類は「図書総目録」や「医学古書目録」にも入っていないものが多い。これは当館のコレクションに関するしつかりした目録が出ていなかったことがひとつの原因であったと思われる。

当館の目録としては、昭和五十六年に刊行された「医学古書目録(予備版)(全三五頁)」があるだけだったが、平成五年、当時の矯正道教授(亥鼻分館長)の下で、古医書及貴重書の整理と目録作成が、められ平成十二年二月付で「千葉大学附属図書館亥鼻分館蔵書・古書コレクション目録(全二八六頁、中間版)を刊行し、現在完成版刊行への作業がすすめられている。

【利用方法】閲覧時間は平日 午前九時〜午後五時 遠方の方は事前に日時を告げて申しこまれた方が確実、資料の貸出しは行っていません。

【交通案内並びに通信先】JR千葉駅より京成バス(大学病院行)又は南矢作行、川戸行、千葉大学医学部入口下車 平二〇〇一八六七 千葉市中央区亥鼻一〇八〇 TEL 〇四三三三六三三三 FAX 〇四三三三六一二四 (樋口誠太郎)

セミナー事業の展開について

るのほな同窓会理事 鈴木 信夫 (昭47)

るのほな会の会員の皆様
の生涯学習の場を各支部と
大学本部が協力して開設し
ていく準備を現在試行中
です。今回、千葉大学医学研
究院緊急時対応ワー
キングシステム、千
葉県衛生研究所、千
葉市環境保健研究所
および、千葉市立青
葉病院の協力の下別
表のようなSARS
講座を展開してみま
した。講座開設に
は、株式会社インタ
フォーラムアソシエ
イツもボランティア
的に参画し、各回50
名前後の参加者が集
まりました。また、
熱心な参加者で、医
療関係従事者でない
方々には、コーディネ
ーターの称号証を授
与しておきました。
会員の先生方には、
万が一SARSが再
流行し、患者への対
応にそのコーディネ
ーターの助けを必要
とする場合、本部へ
お問い合わせくださ
い。また、今回の企

画は、種々の団体から今後
も継続してほしいとの要望
が出されております。会員
の先生方でもご要望があり
ましたら、所属支部や本部
へ提出して下さることを希
望します。

へお問い合わせ下さい。さ
らに、他にこんな企画をし
てほしいという要望も本部
へ提出して下さいることを希
望します。

SARSとバイオテロを考える集い

- 日 時**：5月31日(土) 午後1時～午後3時
場 所：ロッテプラザ (JR錦糸町駅前)
内 容：1. 千葉大学大学院医学研究院の緊急時対
 応システム作りの現状
 (千葉大学大学院医学研究院
 環境影響生化学講師 喜多和子)
 2. 毒素タンパクの無毒化
 (千葉大学大学院医学研究院
 病原分子制御学教授 野田公俊)
 3. 最近のウイルス学
 -コロナウイルスを中心に-
 (千葉大学大学院医学研究院
 分子ウイルス学教授 白澤 浩)
 4. 千葉大学附属病院におけるSARS対策
 の現状
 (千葉大学医学部附属病院
 感染症管理治療部長 佐藤武幸)
 5. 人工生物に対応する科学的研究基盤の
 現状
 (千葉大学大学院医学研究院
 環境影響生化学教授 鈴木信夫)

SARSを 初歩から学ぶ集い

—これまでのかぜとSARSはどう違うの？ SARS
ウイルスとは何なの？ 検出はどうするの？ 今冬は
大流行するの？・・・

—日頃SARSとは直接関係ない研究教育をしてい
る生命科学の研究教育者と一緒に少し考えてみま
せんか？

講師：千葉大学医学研究院 教授 鈴木信夫
千葉大学教育学部 助教授 野村 純

場所：千葉大学医学部本館1階第3講義室

日時：7月26日(土) 午後12時～12時45分

SARSなどの医学危機管理問題に対処する社会人コーディネータ養成講座

第1回 7月18日(金)

- 午後1時～1時5分 (総合案内 インターフォーラム 島名湖澄
司会 千葉大学医学研究院 鈴木信夫教授)
 午後1時5分～1時20分 経営の危機管理と疾病リスク管理の共通点
(TKC 神野宗介全国副会長)
 午後1時20分～1時40分 中国のSARS事情
(中国洛陽大唐航空設備有限公司 戴曉誠理事長)
 午後1時40分～2時 SARS ウイルス
(千葉大学医学研究院 白澤 浩教授)
 午後2時～2時10分 休題 (アンケート回収)
 午後2時10分～2時50分 千葉大学附属病院における対応の現状
(千葉大学医学部附属病院 病院長 藤澤武彦教授
感染症管理治療部 佐藤武幸部長)
 午後2時50分～3時 質疑 および 第2回～第4回の予告
場所：東京(新丸ビル内1階 新丸コンファレンススクエア)

第2回 7月26日(土) 午後1時～4時

- 場所**：千葉大学医学部本館1階 第3講義室
 午後1時～1時10分 (総合案内 インターフォーラム 島名湖澄
司会 千葉大学医学研究院 鈴木信夫教授)
 突然変異と生命の危機管理 (鈴木信夫教授)
 午後1時10分～1時40分 肺炎の話 (千葉大学保健管理センター 長尾啓一教授)
 午後1時40分～2時10分 重症呼吸不全患者の初療と集中治療 (平澤博之教授)
 午後2時10分～2時15分 休憩 (アンケート回収)
 午後2時15分～2時35分 “白い粉(千葉大での実例)”と“細菌毒素”への対処方法 (野田公俊教授)
 午後2時35分～3時5分 SARSに関する検査について
(千葉県衛生研究所ウイルス研究室 海保郁男室長)
 第3回～第4回の予告
 移動
場所：千葉大学医学部本館地下1階 第1実習室
 午後3時10分～4時 PCR 検査の見学または実習 (喜多和子講師)
(千葉県衛生研究所ウイルス研究室 小川知子首席研究員)

第3回 7月30日(水)

- 千葉市環境保健研究所
 13:30 開会
 13:35～ 講義1 千葉市環境保健研究所次長 小笠原義博
 食中毒発生時における行政対応について
 14:15～ 講義2 同 医科学課長 堀川彰臣
 千葉市における最近の食中毒・感染症検査の傾向
 14:40～ 講義3 同 課長補佐 秋元 徹
 感染症情報センターと健康危機管理
 15:20～ 施設見学
 15:50～ 講義4 同 所長 大道正義
 衛生研究所の機能と役割：健康危機に備えて
 16:20～ 質疑
 16:30 閉会

第4回 7月31日(木) 午後2時～6時

- 集合場所**：千葉大学医学部本館1階 第3講義室
 午後2時～2時10分 (総合案内 千葉大学医学研究院 鈴木信夫教授)
 午後2時10分～2時45分 医学検査の現状解説 (野村文夫教授)
 午後2時45分～3時 移動
 午後3時～4時 千葉市立青葉病院における対応の現状
(病院紹介講義と院内見学) (平井昭病院長)
 午後4時～4時10分 移動
 午後4時10分～5時 附属病院検査部の見学
(大澤進臨床検査技師長、他)
 午後5時～5時5分 移動
 午後5時5分～5時20分 (予定)北京市周辺の近況報告
(中国一時帰国留学生)
 午後5時20分～6時 呼吸器生理のミニポイント
(呼吸器機能管理のモデル見学) (下山恵美講師)
 修了式 (福田医学研究院長)

～ 21世紀の寺子屋教室 ～

SARS

問題を学び命を考える集い

—SARS ウイルスとは何?, 検出はどうするの?,
今冬は大流行するの?, ...,
SARS から学ぶ命の大切さとは—

講 師 : 千葉大学医学研究院 講師 喜多 和子
教授 鈴木 信夫

場 所 : 東光院(仙北郡清水町切上)

日 時 : 8月24日 午前10時～12時

参 加 費 : 無料

参加資格 : どなたでも参加可能(事前登録不要)

主 催 : 東光院
千葉大学医学研究院 USC
(Universal Society Center)

千葉大学医学部における 医学教育・卒後教育を紹介する会

日時 : 8月5日(火) 午後6時～8時

場所 : ロッテプラザ3階 平安の間 (JR錦糸町駅北側)

- 18:00-18:15 はじめに 千葉大学医学部キャンパスと同窓会の歴史
千葉大学大学院医学研究院 鈴木 信夫教授 (総合司会)
- 18:15-18:40 新しい肉眼解剖実習コースを通して学ぶ
人体構造の素晴らしさと生命の尊厳
千葉大学大学院医学研究院環境生命科学 森 千里教授
- 18:40-18:50 休 憩 (アンケート回収)
- 18:50-19:10 PBL チュートリアル 医学教育への導入
千葉大学附属病院卒後・生涯医学臨床研修部 田邊 政裕教授
- 19:10-19:30 総合診療部の卒前卒後および生涯研修への取り組み
千葉大学附属病院総合診療部 生坂 政臣教授
- 19:30-19:50 おわりに 医学教育の現状
福田 康一郎医学部長
- 19:50-20:00 質 疑

SARS関連以外でも、本学医学部の教育を紹介する会を試行しました。国立大学の法人化後の民営化が叫ばれる最近、本学の教育システムを強調する機会が必要であり、会員の多くの方々の理解も必要であることから、東京で開催しました。在校生の父兄など約70名の方々が各講師のお話しを熱心にお聞きになり、盛大な中、今回の初の試みを終了することができました。

千葉大学医学研究院環境影響衛生化学では、毎年、全国の教育委員会などと共催し、食品・健康問題などに関連した市民講座を開講していますが、今回、一連のSARS関連セミナーと連動させ、上記の寺子屋を開講しました。秋田県出身の本学医学生も加わり60名以上の参加者があり、7名のお坊さんによる祈禱式のおとSARSに関する講義・検査法の解説が行われ、盛大な会となりました。



▲ 第1回講座質疑風景
◀ 第2回講座 福田康一郎医学研究院長講演

▲ 第4回講座終了式



▲ 第1回講座 白澤浩教授講演

▲ 第1回講座講義

第4回講座 下山恵美先生による講義 ▶

第1回講座 渡辺武同窓会長挨拶 ▶

平成15年度緊急時対応システム講座

(次のような講座が開設されています。会員の先生方には無料で参加可能です。事前予約制ですので、聴講希望の先生は希望参加日を本部にあらかじめお知らせ下さい。)

回(通算)	年/月/日	演 題	演 者(所属)
11	15/10/10	危機管理と機器(2) 旅行医学における危機管理	(島津製作所) 篠塚 規(日本旅行医学会)
12	15/11/28	危機管理と機器(3) 東京地下鉄サリン事件、その教訓と 今後の化学テロ対策	ピアコア株式会社 奥村 徹(順天堂大学救急部)
13	16/1/16	生物・化学兵器対策と自衛隊の役割	白濱龍興 藤井達也(自衛隊中央病院)
14	16/2/6	危機管理と機器(4) (仮題)緊急時情報ネットワーク	CDC 情報システム株式会社 柴田義孝(岩手県立大学ソフトウェア情報学部)

場所 附属病院第3講堂 時間 午後5:00～7:00
問い合わせ先(医学部学務係) TEL 043-226-2008 FAX 043-226-2005

平成15年度 あのはな同窓会総会議事録

日時
平成15年6月21日(土)
15時30分～

場所
銀座アスターお茶の水
実館

道永理事の司会、近藤副会長の辞により、開会となった。物故者に黙祷を捧げた後、長澤会長より御挨拶があった。

会務報告

鈴木理事より、昨年度の会務報告がなされた。庶務関係として、各会議、各支部との交流について説明があった。会計関係として決算の概要、事業関係として学外研究助成、同窓会賞、同窓会報の概要について説明があった。

議題

長澤会長が議長に選出された。
一、平成14年度決算案について
白澤理事より、決算内容についての説明と、笠川、秋葉両理事より、監査報告があり、決算案が承認された。

二、平成15年度事業計画について
滝口理事より、会報発行

あのはな同窓会賞・助成授与、支部支援・支部会報発行助成、教育・渉外助成、同窓会館補修支援、亥鼻祭支援、同窓会活性化施策(会員増員、会員意見集約、講演会開催等)について説明があり、承認された。

三、平成15年度予算案について
白澤理事より、支部会報発行、渉外助成、同窓会館補修支援、亥鼻祭支援、同窓会活性化施策等、前年度との相違点について説明があり、予算案が承認された。

四、名誉会員の推薦について
滝口理事より、平成15年3月に退官された安達恵美子、大和田英美、木内政寛、千葉胤道教授の名誉会員への推荐について説明があり、承認された。

五、会則の改定について
鈴木理事より、役員任期を3年から2年に改正する旨説明があり、承認された。

六、役員の選出について
鈴木理事より、渡辺新会長、大藤、富田新副会長をはじめ、理事等の選出について説明があり、承認された。

七、新会長挨拶
渡辺新会長の御挨拶が、大浜理事により代読された。

報告事項
一、学外研究助成選考について
木内理事より、委員会による選考経過と各受賞者の推薦理由の説明があった。

二、同窓会賞選考について
木内理事より、委員会による選考経過と功労賞、学術賞の各受賞者の推薦理由の説明があった。

三、同窓会会報関係
白澤理事より、会報の編集方針について報告があった。

四、同窓会活性化試案について
鈴木、白澤理事より、会員の意識調査に基づき、ニーズに適合した施策を展開する旨報告があった。

小幡理事の辞により、閉

会となった。

あのはな同窓会賞表彰式

木内理事の司会のもと、功労賞、学術賞の表彰式が行われた。長澤会長よりの表彰盾の授与に続き、各受賞者の御挨拶を頂いた。

時局講演

長澤会長の司会のもと、福田研究院長から医学部の現状と課題、藤澤附属病院長からSARS対策等附属病院の展望についてお話を伺った。

懇親会

済陽理事の司会、大浜理事の辞により、開会となった。長澤会長のご挨拶に始まり、楽しい歓談の時を過ごした。学外研究助成受賞者の御挨拶のほか、多くの出席者から御意見、近況なども伺い、有意義な会であった。藤山理事の辞により閉

四金会開催のお知らせ

平成15年11月26日(水)
午後5時30分より
千葉スカイウィンドウズ
東天紅

(千葉駅前そごう
西隣りセンチティ
タワー22階)

同窓会員の方々の出席を
お願い致します。
会費は3,000円です。

連絡先
千葉大学あのはな同窓会
電話 043-202-3750

平成14年度決算報告書

収入の部

款 項 目	予 算 額 (円)	決 算 額 (円)	対予算額 (円)
会 費 等	23,000,000	23,041,750	41,750
他 会 計 受 入	40,000	28,991	-11,009
寄 付 金	2,880,000	3,531,447	651,447
雑 収 入	105,000	2,305,710	2,200,710
(当期収入計)	26,025,000	28,907,898	2,882,898
前年度繰越資金受入	8,865,641	8,865,641	
収 入 合 計	34,890,641	37,773,539	2,882,898

支出の部

款 項 目 (前)	予 算 額 (円)	決 算 額 (円)	対予算額 (円)
総 務 費	11,820,000	7,536,987	4,283,013
事 業 費	19,510,000	13,681,294	5,828,706
予 備 費	460,641	150,000	310,641
積 立 金	3,100,000	3,100,000	0
次 期 繰 越		13,305,258	-13,305,258
支 出 合 計	34,890,641	37,773,539	-2,882,898

平成15年度予算

収入の部

款 項 目	平成15年度予算額 (円)	平成14年度決算額 (円)	対前年度決算額 (円)
会 費 等	22,000,000	23,041,750	-1,041,750
他 会 計 受 入	15,000	28,991	-13,991
寄 付 金	3,300,000	3,531,447	-231,447
雑 収 入	22,000	2,305,710	-2,283,710
(当期収入計)	25,337,000	28,907,898	-3,570,898
前年度繰越資金受入	13,305,258	8,865,641	4,439,617
収 入 合 計	38,642,258	37,773,539	868,719

支出の部

款 項 目 (節)	平成15年度予算額 (円)	平成14年度決算額 (円)	対前年度決算額 (円)
総 務 費	13,120,000	7,536,987	5,583,013
事 業 費	17,410,000	13,681,294	3,728,706
予 備 費	5,012,258	150,000	4,862,258
積 立 金	3,100,000	3,100,000	0
次 期 繰 越		13,305,258	-13,305,258
支 出 合 計	38,642,258	37,773,539	868,719

エッセー

泡盛の古酒

望月良夫(昭30)

梅雨どき、スコッチウイスキー「ロイヤルサルト50年」720ml6本が販売された。

エリザベス二世戴冠50周年の記念品で、英シールズブラザーズが熟成年数50年以上の原酒から厳選し、ブレンドした255本のうちの6本、1本100万円であった。

澱粉を発酵させた酒を蒸留すると、少量の香味を含んだ度数の高いアルコール飲料ができて腐敗しない。

しかも、3年以上熟成させれば経年に比例して芳醇となる。

蒸留酒は、ジン、ウォッカ、テキーラ、ラム、アブサン、グラッパ、白酒、コリアン酒など世界で20ほどを数えるが、熟成年数を売り物にするのはウイスキー、ブランデー、泡盛が有名だ。

しかし、米を発酵させてできあがった酒の場合が少し違う。半年間はピリピリするし、熟成は2年がよく、3年以上は別の味となる。蔵出し年月日が酒瓶に明記されているから、720ml何千円もする銘酒だったら蔵出

し1年半になるよう冷蔵庫で保管して飲むのが賢い。

越乃寒梅超特撰500mlは2年熟成を出荷している。1990年、石本酒蔵は「越乃寒梅古酒乙焼酎」720mlを初出荷した。40度5年熟成である。

14世紀からの琉球王国へ、500年前にタイから渡った蒸留酒が泡盛の源である。

タイ米を原料とする製法は、1世紀経つと九州各地に伝えられたが、素材の澱粉が変わった。鹿児島なら芋である。17世紀に入り琉球が薩摩藩の支配下になると、江戸幕府への泡盛献上が義務づけられた。

明治となり廃藩置県によって、九州は福岡、大分、宮崎、鹿児島、佐賀、長崎、熊本、沖縄に分かれたが生産は続けられ、沖縄では独自の発展を遂げた。つまり、長年熟成させるために甕で保存するのである。たとえば、誕生記念に一甕仕込み、成人祝いに封を明ける。

沖縄には仕注ぎという風習があった。60年70年という古酒が旧家にあり、70年古酒を飲んだら60年古酒で

補い、それをまた50年で、という具合に順次仕注ぐ。複数の甕を準備して仕注ぎをすれば慶事などには、百年もの古酒が賞味できる。

太平洋戦争まで、九州や沖縄産の蒸留酒は瓶につめられず、泡盛の名で飲食店に量り売りされ、安くてクセがある、というイメージがあった。近年、焼酎業界は様変わりである。瓶に詰めて売られ、1983年、政府は乙類焼酎、本格焼酎など表示を決め、「泡盛」は正式名称となった。昭和から平成にかけてブームがあり、いま、焼酎をつくる蔵の数は全国で300、銘柄は350をこえる。

去る夏、友人が沖縄を訪ね、店名マル秘の居酒屋で泡盛43度50年古酒、20cc400円を経験したという、「アルコールはすっかり枯れて滋味ばかりでした」。

石垣島など戦場にならなかつた島々の裕福な家には、130年、200年古酒がひそかに存在するが、私たちは飲む術がない。



10年ぶりの「亥鼻祭」開催に向け、準備着々!!

2003年度 千葉大学亥鼻祭実行委員会

実行委員長 医学部4年 吉村健佑
副実行委員長 医学部3年 友成 暁子

今年度、亥鼻祭実行委員会の委員長・副委員長を務めております医学部4年吉村健佑と医学部3年友成暁子と申します。今回はのりして、10年ぶりに開催されます亥鼻祭の準備状況について、のり同窓会の皆様へお知らせ致します。

まず始めに、この度は亥鼻祭へのご協力・ご寄付を多くの先生方から頂き、また、のり同窓会様の亥鼻祭へ多大なご協賛を頂き、まことにありがとうございます。

亥鼻祭は今年度の開催が10年ぶりのため前年度の繰越金がなく、非常に予算が厳しい状況でありました。その中で先生方の亥鼻祭へのご理解とご協力は私達学生へのとても大きな力となりました。同時に亥鼻祭に対する諸先輩方の期待の大きさを実感し、実行委員としてあらためて身が引き締まる思いが致しました。今後とも、私達亥鼻祭実行委員会の活動にご注

目下さい。現在亥鼻祭実行委員会では11月2、3日の開催に向けて企画の方も大詰めで、準備の最終段階へと入っております。その中のいくつかをご紹介します。

亥鼻キャンパス内にある「医学部記念講堂」では、2つのシンポジウムを企画しております。

1 日目の11月2日13時より、医療の問題を中心

にさまざまな方面で活躍されているノンフィクション作家の第一人者である柳田邦男氏、「病院で死ぬというこ

の著者であり、執筆活動を通してホスピス医療を追及しておられる千葉大学医学部OBの山崎章郎氏、家族看護研究所の現所長で千葉大学看護学部OGの渡辺裕子氏をお呼びしての「医療者のライフワーク」というテーマで講演・対談を予定しております。また、2日

の11月3日13時より、「魅力ある千葉大学を創りたい」そんな想いのもと学生から千葉大学にさまざまな、仮想プロジェクトを提案し、学生と教職員がともに千葉大の今後を考え、未来を創造しようという、シンポジウム「今の『千葉大』でいいんですか?」を予定しております。

他にも、看護学部校内では「寄生虫展」や、「健康食レストラン」など様々な企画が行われる予定です。また、亥鼻キャンパス周辺地域の方々にも是非亥鼻祭へ足を運んでいただきたいと願い、「フリーマーケット」や「子供向け企画」などをを行い、地域密着型の大学祭を目指しています。

今年1月に亥鼻祭実行委員会が発足して以来、実行委員の数も100人を越え、間近に迫った11月2、3日の亥鼻祭開催に向けて学生の士気も高まってきています。11月2、3日の両日とも午前10時より亥鼻祭は始まります。是非秋の亥鼻祭開催の際には亥鼻キャンパスへ足を運んでくださるよう、学生一同、心よりお待ちしております。

現在、千葉大生のパワーを感じて来て下さい!



第79回千葉医学会学術大会 (第40回日医生涯教育講座)

日時：平成15年12月17日(水) 16時30分～18時30分
場所：千葉大学医学部附属病院 3階 第1講堂
学術大会 会長 福田 康一郎



寺島東洋三 先生



松本 智裕 先生



宮本 忠昭 先生

特別講演

「細胞周期と放射線」

演者：寺 島 東洋三 (元放射線医学総合研究所 所長)
司会：清 水 文 七 (千葉大学 名誉教授)

招待講演

「有糸分裂期のチェックポイント機構とその変調がもたらす発ガン」

演者：松 本 智 裕 (京都大学放射線生物研究センター 教授)
司会：鈴 木 信 夫 (千葉大学大学院医学研究院 教授)

「重粒子線による早期肺癌治療 -From radiotherapy to radiosurgery-」

演者：宮 本 忠 昭 (放射線医学総合研究所重粒子医科学センター病院 第1治療室長)
司会：伊 東 久 夫 (千葉大学大学院医学研究院 教授)

参加費手続き及び費用は不要です。

多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

問い合わせ：千葉医学会 TEL: 043-202-3755 FAX: 043-202-3757

e-mail:igakukai@med.m.chiba-u.ac.jp / URL:http://www.c-med.org/

千葉大学校友会総会開催のご案内

日時 平成15年10月4日(土) 15時から
場所 幕張プリンスホテル プリンスホール(2階)
千葉市美浜区ひび野2丁目3番

電話 043-296-1111(代)

日程

総会 15時から
講演・シンポジウム 16時から
(講演) 「21世紀COEプログラム等について」
経緯紹介 磯野 可一(千葉大学長)
消化器扁平上皮癌の最先端多戦略治療拠点
―遺伝子治療と重粒子線治療の遺伝子解析に
基づくテーラーメイド化―
丹沢 秀樹(医学研究院教授)

日本文化型看護学の創出・国際発信拠点
―実践知に基づく看護学の確立と展開―
石垣 和子(看護学研究科教授)
超高性能有機ソフトデバイスフロンティア
上野 信雄(自然科学研究科教授)
千葉大学のロースクール構想について
遠藤 美光(法経学部教授)

懇親会 18時15分から
「シンポジウム」 「千葉大学の国際交流の推進について」

会費 8,000円

なお、総会等に参加を希望される方についての受付窓口は各学部同窓会幹事または校友会事務局(043-290-2900-2000)までお知らせくださいますようお願いいたします。

52会々告

2003年度52会総会の日程・会場が決定したので、お知らせします。

日時 平成15年10月12日(日)
午後6時

会場

帝国ホテル(東京)
みやびの間

2次会は同ホテル17階レインボーラウンジで行います。
(代表幹事 古川 斎)

人事異動

助教昇任

放射線腫瘍学
宇野 隆(昭63)

(同講師より)

講師昇任

整形外科
和田 佑一(昭58)

(整形外科助手より)

おくやみ

- 塚本 義雄 (日大昭6)
- 井関 源衛 (昭9)
- 黒部 信夫 (昭11)
- 大塚 正壽 (昭13)
- 大西 正 (昭16)
- 小林 恒一 (昭16)
- 有里 実行 (昭19)
- 斎藤 成美 (昭19)
- 前田 平馬 (昭19)
- 高山 宜夫 (東医昭19)
- 河田 修 (昭20)
- 石田 武 (昭21)
- 折笠 睦男 (昭21)
- 鈴澤 澄夫 (昭21)
- 石橋 文太 (昭22)
- 小林 幹夫 (昭24)
- 玉川 勝郎 (昭25)
- 本田 良行 (金沢昭25)
- 秋葉 照夫 (昭26)
- 鷹野 悦三 (昭26)
- 河野 保久 (昭29)
- 青木 淳 (昭30)
- 樋浦 宗雄 (日大昭31)
- 石橋 憲尚 (日大昭34)
- 村上 秀瑛 (昭36)
- 中村 光司 (昭37)
- 忍足 正之 (東邦昭39)
- 永井 次郎 (昭45)
- 赤松 利信 (平8)

編集後記

現在、大学という単位が、本当にひとつの価値観で運営されるにふさわしい単位であるかということが大きな問題となっていると考えます。大きな組織は、大きな仕事を行う可能性を秘めています。逆に萌芽的な作業には適さない側面もあります。かといって、組織が小さくなれば身分保障など基盤が弱くなりがちです。それぞれの組織にとって、価値観(到達目標)、サイズ、存続期間の調和をとることがいかに困難な作業であるかということを感じさせます。独立法人化にあたって求められていることは、個々の大学の価値観です。千葉大学にとっても現在有効に活用するための価値観を構築する作業は困難を極めるものであると想像されます。しかしながら、それは乗り越えねばならないハードルであり、組織をよりよいものにしていくひとつの機会であると受け取るべきでしょう。冷静な分析、議論、構成員の協力に基づいて、新たなページを開きそこに独特かつ魅力ある絵を描きうるための一助となりうる同窓会報を発行していきたいものです。
(古関明彦・昭61)